

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	1		
科 目 名	生化学・栄養学				
担 当 者	森谷徳文				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.3	4.3	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>生化学・栄養学は医療従事者として基礎となる知識です。復習資料を元に出来るだけ内容を理解していただくと2年生以降の教科の理解に役立つを思います。頑張ってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	1		
科 目 名	歯科理工学				
担 当 者	森谷徳文				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.3	4.2	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>歯科理工学は座学のみでは理解が難しいので、演習とともに学んでくださると理解が進むと思います。演習や実習で歯科関連器具、器材に触れたら歯科理工学の教科書を見返して学ぶと知識が定着してくると思いますので、今後も頑張ってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	子ども学				
担 当 者	中村美紀				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.5	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>皆さんへ</p> <p>多くの項目で高い評価をいただき、皆さんが意欲的に授業に参加してくれたことを嬉しく思います。</p> <p>特に、「わかりやすかった」「実践的で楽しかった」「ゲストスピーカーの話が勉強になった」という意見は、授業を企画するうえで大きな励みになりました。</p> <p>一方で、授業時間外の学修時間はやや少なめという結果も出ています。子どもを理解するというテーマは、講義の中だけで完結するものではありません。これからの学びや実習、日常の観察の中で、「なぜだろう」「どうしてだろう」と自分で問い、考える姿勢をさらに伸ばしてほしいと思います。</p> <p>皆さんが主体的に参加してくれたことに心から感謝します。</p> <p>今後の学びの中でも、「子どもを見る視点」を大切にしてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	機能再建系歯科診療補助演習				
担 当 者	中村美紀				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.5	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>皆さんへ</p> <p>多くの項目で高い評価をいただきました。とくに「意欲的に参加した」「説明が丁寧でわかりやすかった」「実習でより深く学べた」という声を嬉しく拝見しました。皆さんが真剣に実習に取り組んでくれたことが、結果にも表れていると感じています。</p> <p>演習科目は、知識だけでなく「動ける力」「気づける力」「支えられる力」を育てる時間です。授業外でも一定の学修時間が確保されていたことから、主体的に取り組んでくれたことが伝わりました。</p> <p>一方で、「実習室が寒い」という意見もありました。環境面については改善できる点がないか検討していきます。率直な意見をありがとうございます。</p> <p>これから臨地実習に出る中で、この演習で身につけた基本姿勢と丁寧さを大切にしてください。皆さんの成長を今後も期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	医療安全				
担 当 者	上原弘美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>医療事故と院内感染防止の基本を知り、安心安全な歯科医療を提供する重要性を理解してもらえるように授業の組み立てを工夫をしました。新聞記事や感染症対策についてのガイドラインを教材として、興味を持って学習に臨めるようにしました。本科目は、今後の学内実習や臨地実習に繋がる授業であり、歯科衛生士業務を実践するうえでは欠かすことのできない知識になりますので、しっかりと知識の定着を図るようにしてください。</p> <p>授業評価のカテゴリー II～V は 4.4～4.5 とほぼ学科平均という結果でした。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	歯科臨床検査総論				
担 当 者	上原弘美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.3	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>医療検査学科の先生がたのご協力のもと、オムニバス形式で授業をおこないました。皆さんにとっては難しい内容のものもあったかと思います。しかし、当科目で学修する内容は、歯科衛生士にとって臨床の現場では必要不可欠な知識ばかりですので、3年次の臨地実習においても当科目の内容を思い出しながら、しっかりと知識の定着を図るようにしてください。カテゴリー I～V まですべての項目において学科平均をやや下回る結果となりましたが、カテゴリー II～V は全て 4.3 で、昨年度の評価よりも高い数値となりました。皆さんにとってよりわかりやすい授業を工夫しおこなえた結果だと思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	3		
科 目 名	IPW（多職種連携）論				
担 当 者	上原弘美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.4	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>様々な医療職の教員に講義をお願いし、オムニバス形式で授業をおこないました。医療職種の中でも歯科医療の専門職である「歯科衛生士」は、多職種との連携がまだまだできていないのが臨床現場の現状です。将来、皆さんが多職種の方々と肩を並べ、その役割が発揮できる歯科衛生士になるために必要な多職種連携の基礎を学習する内容でした。</p> <p>カテゴリー I～V まですべての項目においてほぼ学科平均という結果でした。学生からの意見として、「多職種について学ぶことができるのはこの学校ならではの強みであると思いました。とてもいい勉強になりました。」「様々な視点から多職種連携が学べて良かった。」など、本科目の授業目標を理解してもらえたご意見をいただきました。オムニバス形式であったことで、幅広い知識の修得に繋がったことが良かった点としてあげられます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	ワークキャリアプランニング				
担 当 者	八木孝和				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.3	4.5	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>自分を知る良い機会になったのではないかと思います。皆さんが歯科衛生士として旅立つ日が来るまでの間の時間は長いようで、それほど多くはありません。残された学生生活の中で自分の中の歯科衛生士像をしっかりと見つけて、その像に自分を重ねることができるようにして下さい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	3		
科 目 名	研究方法論				
担 当 者	八木孝和				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.3	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>難しく感じる授業もあったかと思いますが、しっかりと予習をしていけば4年生の卒業研究に繋がる内容です。手元の配布物を確認して、卒業研究を無理なくできるようになってもらえればと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	歯科矯正学				
担 当 者	八木孝和				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.1	4.1	4.2	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>この科目は他の歯科領域では出てこない専門用語や器具が多く、覚える内容が多く、授業時間が足りない状態でした。皆さんは授業の配布プリントや教科書をよく見直しして、今後の実習に参加した際に活用して下さい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	1		
科 目 名	歯科診療の補助演習				
担 当 者	川野亜希				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.4	4.3	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価への協力ありがとうございました。</p> <p>「歯科診療の補助演習」は、今後の臨床実習や歯科衛生士としての実践につながる基盤となる科目です。演習で学んだ基本的な知識・技術・安全への意識は、今後すべての臨床場面で求められます。</p> <p>皆さんからいただいた意見を参考に、より理解しやすく、実践につながる演習となるよう改善していきます。今回の学びを振り返り、不十分だと感じた部分はぜひ繰り返し確認し、次の演習や臨床実習に活かしてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	1		
科 目 名	歯科理工学演習				
担 当 者	川野亜希				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価への協力ありがとうございました。</p> <p>歯科理工学演習は、歯科材料の性質や取り扱いを理解するための基盤科目です。材料系の内容は国家試験でも頻出であり、臨床現場でも正確な知識が求められます。</p> <p>今回いただいた意見は今後の演習改善に活かしていきます。材料の特性や操作手順は「理解しているつもり」ではなく、「説明できるレベル」まで整理しておくことが重要です。演習で体験した内容を復習し、知識と実技を結びつけておきましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	1		
科 目 名	歯科予防処置論				
担 当 者	高橋由希子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.1	4.2	4.0	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>歯科予防処置は、歯科衛生士の根源となる内容で、これからの3年間、少しでも歯科衛生士の予防業務内容に興味をもってくれるよう配慮しました。歯周病に興味を持ってもらえましたか？</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	歯周疾患処置演習 I				
担 当 者	高橋由希子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.5	4.5	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>卒業時に、少しでも歯科衛生士として自信をもてるよう、スケーリングルートプレーニングの技術を身に付けてほしい。歯周疾患処置演習 II でも復習しましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	3		
科 目 名	オーラルマネジメント				
担 当 者	高橋由希子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.5	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>歯科疾患予防の考え方は全身疾患にも深く関わってくるので、包括的に学習してほしいと思います。歯科衛生過程の活用はだいぶできるようになりました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	社会福祉概論				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.3	4.5	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>自由記述も拝見しました。真摯に受け止め、改善すべき点は努力し、講義内容については常に最新の内容に更新して、役に立つ内容に努めてまいります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	3		
科 目 名	高齢者歯科学				
担 当 者	小屋経寛・江崎ひろみ				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.3	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>毎授業ごとのミニツツペーパーへのコメントや本授業評価のおかげで、授業の改善点がわかりました。ありがとうございました。</p> <p>本科目は 3 年後期前半で、発展臨地実習前の講義でした。臨床現場で患者対応される実際の様子や、写真映像を視聴することでリアリティのある学習内容であったと思います。高齢者歯科学は学習範囲が広く、高齢者の特性、生活背景、訪問歯科における患者・家族への対応、摂食嚥下リハビリテーションの実際等多くのことを学んでいただきました。国試に向けて自己学習自己研鑽を続けてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	医療面接				
担 当 者	江崎ひろみ・破魔幸枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>医療従事者と患者が対等な立場でコミュニケーションを行い良好な人間関係、信頼関係を構築するにはどうすればよいのか具体的に考えてもらいました。医療面接の基本となる患者への共感的態度を理解し、病歴聴取・情報収集、全身の健康状態の把握のための実践的技術を学修していただきました。情報収集の難しさ、多くの知識を要することが分かったと思います。アセスメントする力は、一度や二度の授業で身につけるのは難しいことです。本授業で得た基本的な知識をもって、臨床実習では患者に向き合い、自分で観る・気づく・考察する・工夫する・考えを伝える（記述する）ことに活かしてもらいたいと思います。また、今年度は患者対応のひとつである、患者観察技術としてバイタルサイン測定技術を学んでいただきました。3年次の応用発展臨地実習実践に役立ててください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの食と栄養				
担 当 者	江崎ひろみ・川野亜希・吉田幸恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.7	4.7	4.7	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>毎授業ごとのミニツツペーパーへのコメントや本授業評価のおかげで、授業の改善点がわかりました。ありがとうございました。</p> <p>本科目は、子どもの成長各期における望ましい栄養状態の知識のみならず、幅広く食育についての知識と保護者支援、子どもを取り巻く食環境について学修していただきました。子どもの豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発育を支え、健康な体と習慣をつくるには、多くの知識と具体的な対応策を身につけなければいけないことが分かったと思います。自身が子どものころから大切に守られ育まれたことを思い起こした学生さんも多くいました。次は、専門的知識を学んだ皆さんが、若いお母さん方へ指導する立場に成長してください。(江崎・川野・吉田)</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	3		
科 目 名	オーラルリハビリテーション演習				
担 当 者	江崎ひろみ・中村美紀				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.6	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>オーラルリハビリテーション演習は、嚥下機能評価、食事介助方法、口腔機能管理ならびに口腔衛生管理の実践的知識を基盤にして、対象特性を理解した実践力が求められます。国家試験の出題範囲も多く、必ず修得しておかなければならない知識と技術になります。しかしながら3年生になってはじめて摂食嚥下リハについて専門的に深く学習されたのではないのでしょうか。覚えなければいけない知識が多くあり大変だったと思います。修得した知識と技術は実践を積み重ねることで経験値が高まり、貴女の実践力となることを期待します。2026年の国家試験にも嚥下・発声に関する多くの問題が出題されていますので、食支援の知識・技術力を高めていってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	1		
科 目 名	情報メディア演習				
担 当 者	伴仲 謙欣				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	3.8	3.9	4.0	3.9	
学生へのメッセージ					
<p>履修生のみなさん、授業お疲れ様でした。また、その中の授業評価に協力していただいたみなさん、ありがとうございました。</p> <p>この授業は、原則として①「全学共通の内容である」②「チームで進める」という点に特徴がある科目です。①については、学内の全員が同じ内容を学ぶため、個人の得手不得手や ICT スキルによって理解度や進行速度にどうしても差が生じます。また、その差が大きいため、70名を超える学生に一人の教員が個別指導を行うことは不可能です。そのため、②のチームで進めるという授業形式を採ります。しかしながら、チームで協力して進めたとしても、メンバー構成によりスキルの差が生じることもあります。この部分でチーム事情により苦勞した人もあったと思います。ただし、この授業の本質は、課題をクリアする「結果」にあるわけではありません。情報基礎から続く授業中にも何度も触れましたが、「チームで」「主体的に」課題解決を模索する「プロセス」にこそ学びがあります。この授業で扱う内容は、インターネット上で調べられるものばかりです。これからの AI 時代において最も大切なことは、答えを知っていることではありません。分からないこと、知らないことを「自分で調べ、考える」力が最も求められると思います。特に O 科では、『学びの基礎』から始まり、年間を通して同じグループで活動してもらいました。仲良しグループではない他者と協働し課題解決をしていくという経験やスキルは、単なる ICT 技術より遥かに重要な力です。この授業を通して、それぞれの方々がそれぞれの局面で気づきや学びを感じてもらえれば嬉しいです。その学びが、これからの勉強や生活に役立つことを願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	3		
科 目 名	キャリアパスⅢ				
担 当 者	伴仲 謙欣				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.5	4.6	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>履修生のみなさん、授業お疲れ様でした。また、その中の授業評価に協力していただいたみなさん、ありがとうございました。</p> <p>この授業は、資格取得を目指して集中講義を中心とした授業構成で進めました。みなさんにとっては通常の授業形式と違う部分があり、難しい面もあったかと思います。資格試験結果がうまく行った人もそうでなかった人も、歯科衛生士にプラスしたダブルライセンスが、みなさんの将来のキャリアにどのようにつながっていくのか、というよりも、「どのようにつなげていくことができるのか」ということを今一度考えてほしいと思います。この授業での学びが、今後のみなさんのキャリア形成に少しでも役に立てば嬉しいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	3		
科 目 名	キャリアパスⅣ				
担 当 者	伴仲 謙欣				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.5	4.7	4.5	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>履修生のみなさん、授業お疲れ様でした。また、その中の授業評価に協力していただいたみなさん、ありがとうございました。</p> <p>この授業は、資格取得を目指して集中講義を中心とした授業構成で進めました。みなさんにとっては通常の授業形式と違うところがあって難しい部分もあったかと思います。資格については、ただ取得するだけではなく、その資格を持ってどのように活用するかということが最も重要です。授業は終わりましたが、今回の食育の学びを歯科衛生士の学びにどのようにつなげていくかということを考えて続けてほしいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	口腔保健学科	学 年	2		
科 目 名	ライフステージ別口腔健康支援演習				
担 当 者	宮澤絢子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.1	4.3	4.3	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>この科目では、各ライフステージにおける一般的特徴・口腔内の特徴を学び、事例に対して歯科衛生過程を展開しました。対象者を深く理解したうえで課題を抽出することは、質の高い歯科衛生介入をするための土台となります。</p> <p>アンケートでは、自分の事例展開のどこが間違いで、どこが合っているのか、具体的な指摘を求める声も届きました。正解を知りたいという熱意を感じました。しかし、解説をヒントに自分ら気づき、考えて理解するプロセスこそが、その場しのぎでない臨床での応用力へとつながります。</p> <p>この演習で得た知識を基に、臨地実習では実際の症例に向き合い、根拠に基づいた介入をじっくり考え、皆さんが、学んだことを臨床で実践できる歯科衛生士へと成長していることを心から応援しています。</p>					